

### 種子島におけるサトウキビ株出し栽培の改善に関する研究

第4報 12月に収穫した場合の萌芽向上技術

安庭 誠・\*町田道正・美園 中 (鹿児島県農業試験場熊毛支場・\*鹿児島県農業試験場大隅支場)

Makoto YASUNIWA, Michimasa MACHIDA and Ataru MISONO : Improvement in the Cultural Practices for Ratooned Sugarcane on Tanegashima Island

#### 4. Cultural Practices to promote the Followed Ratooning of Sugarcane harvested in December

12月に収穫したサトウキビの刈株は、収穫時期が早い  
ため萌芽率が低く、株出しに利用されることは極めて  
少なかった。しかし、現在種子島では生産量の増加に伴  
い、収穫時期が早進化した結果、早い収穫時期の刈株  
を株出しに用いる必要性が生じている。また、12月収穫  
後の株出しにおいて、萌芽が良好であったと仮定すると、  
萌芽時期が早まるため、生育期間の延長によって、多収・  
良質化が予想される。

このような背景のもとに、12月収穫後における萌芽向  
上技術の可能性について検討したので報告する。

#### 1. 試験方法

品種間差異及びポリマルチの有無については、供試品  
種に NCo310・Ni1・NiF3・NiF5・KF75-398 を用いて  
1985年12月9日に収穫、ポリマルチは同年12月12日に行  
った。栽培型はいずれも第2回株出しで、3反復である。  
萌芽調査は5月12日に、各区10株を調査した。

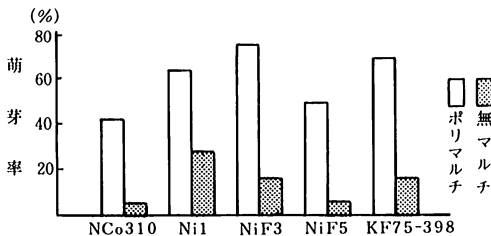
刈取り高さ及び排土方法については、供試品種に  
NCo310を用い、1986年12月22日収穫、排土及びポリマ  
ルチは1987年3月6日に行った。栽培型は第1回株出しで、  
2反復制である。刈取り高さは、地表刈り区と低刈り区  
(深さ3~5cm)を設け、排土方法は第1図のとおりで  
ある。株切り排土は畦の表土及び根茎を5cm程度除去し  
た。萌芽調査は5月21日に各区10株を行った。



第1図 排土方法

#### 2. 結果及び考察

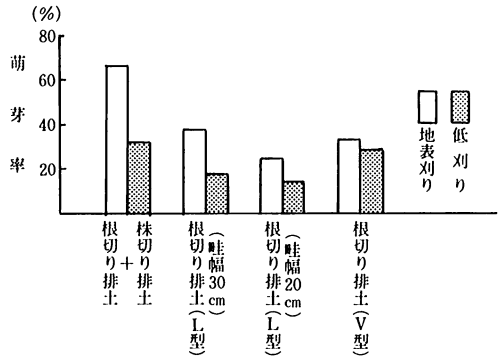
萌芽率は第2図のとおり、品種及びポリマルチの有無  
によって異なり、品種では Ni1・NiF3・KF75-398 が高



第2図 品種及びポリマルチの有無が萌芽率に及ぼす影響

いのに対して、NCo310・NiF5は低かった。また、ポリ  
マルチによって、いずれの品種も萌芽率は高くなった。

刈取り高さ及び排土方法が萌芽率に及ぼす影響は、第  
3図に示したとおりである。刈取り高さによる萌芽率は、  
低刈り区に比べて地表刈り区が明らかに高く、前報と  
同様な結果となった。また、萌芽率は排土方法によっ  
ても異なり、最も萌芽率が高かった排土方法は、根切り排  
土に株切り排土を加えた方法で、根切り排土だけ行っ  
た区に比べ、萌芽率は明らかに高くなった。したがって、  
株切り排土による萌芽率の向上は大きいといえる。



第3図 刈取り高さ及び排土方法が萌芽率に及ぼす影響

このように、株切り排土によって萌芽率が向上する理  
由として次のことが考えられる。土中茎切断面が地表面  
に位置するため、土壤中に存在する黒腐病菌によって起  
る腐敗芽子の発生が少なくなり、また、深い位置に数多  
く分布する下位節芽子に対しては、土壌や根茎による萌  
芽抵抗を除去しただけでなく、深度位置が浅くなるため、  
ポリマルチによる地温の昇温効果が考えられる。

現在、株切り排土は農家段階では実施されていないが、  
収穫時期が早い場合の萌芽向上技術として、有効な技術  
といえる。

以上の結果から、12月収穫後の株出しにおける萌芽率  
は、品種、ポリマルチの有無、刈取り高さ、排土方法に  
よって異なり、12月収穫後の株出し栽培は、これらの技  
術を萌芽率を高める方向に改善することによって可能で  
あると考えられた。